

滋賀県立膳所高等学校同窓会報 遵義堂

発行人/宇野 勝
発行所/滋賀県立膳所高等学校同窓会
大津市膳所2-11-1
TEL077-524-4295・FAX077-524-1732
発行日/平成11年12月6日
編集人/広報部会・谷口啓司
印刷/有限会社服部印刷所

VOL.16

CONTENTS

募金目標満額達成	1
平成11年度総会報告	1
トレーニングハウス竣工	2
卒業年別募金集計	2
投稿欄	3
周年記念同窓会	4
卒業年別同窓会費納入状況	4
周年同窓会予告	5
百周年協奏曲を奏て終えて Part II	6
総会報告(詳細)	7
膳所NEWS	8

募金目標満額達成!

百周年実行委員会 募金推進部会長 岡角 憲次



有り難うございました。皆様方の心暖まるご支援をいただき、募金が目標額に達いたしました。10月31日現在で、1億248,538円も越えました。

募金推進部会一同、感謝感激しているところでございます。これで実行委員会の解散総会には、大きな声で「万歳」を三唱する事ができます。当初、パブルの崩壊で、今時、1億円も集める事ができるだろうかと大変悲観的な意見がありました。案の定、企業からの募金が想像以上に悪く、厳しいスタートとなりました。しかし、平成10年の9月中旬、組織名簿部会のお手伝いを得てから急に明るい展開を見る事ができるようになりました。

皆様方から色々なご批判をいただき恐縮しながら、何としても浄財を集めなければならぬと、決して競っていただいた訳ではございませんが学年初に入金状況を公開いたしました。特に、昭和25年卒から昭和50年卒までの学年は、それぞれ、理事他の方々の血の滲むようなご努力によりまして着々と実績を挙げていただきました。

特筆すべき成果を挙げて見ますと、
①会員300名以上の学年で、一番募金いただいた方の多かったのは、昭和25年卒の皆さんで、会員312名の内、募金して下さった方が206名と参加率66%でありました。
②学年別で一番募金額の多かったのは、昭和28年卒の皆さんで、3,928,378円を頂戴いたしました。

寄付金控除対象募金(免税募金)はお蔭様で10月31日をもって無事終了いたしました。一般募金については平成11年12月31日まで受付いたします。なお、創立百周年記念事業の総括については、来年二月下旬開催予定の実行委員会解散総会の後、次号VOL17号にてご報告させていただきます。

③膳中卒業の会員さんは、1,623名おいでですが、その内の781名(大正9年卒/昭和23年卒)の方から2,250万円頂戴しました。これは13%の会員で総額の22%を占める募金をいただいた事になります。膳中の皆さん有り難うございました。

蛇足ではございますが、金額の最後に38円と言う端数が付いています。これは流石、膳所出身には粹人のおいでで、5万円以上と言う条件をクリアするためと1円を付けた方が2名だとか、同窓会費振込用紙に記載されている口座No.30378で入金された方が2名おられたのです。この端数を付けて置いた方が物語があつて面白いと言ふ意見と、端数を出し合つて万円に収めようと言ふ意見があつて我々としては未だ迷つている始末です。締切りにつきましては、免税募金は10月31日で終了しましたが、一般募金は平成11年12月31日迄です。

話は変わりますが、去る9月5日、募金推進部会だけで満額達成を記念して、この感激が覚めないう間にと慰労会を催しました。高城副部会長を始め、椿、今市、横田、大村、上田他3名、計10名の諸氏が集まり、文字通り、苦勞を慰め合い楽しい一時を過ごしました。

席上、1億円と言うのはどれ位になるのかなあと質問が出ました。物知り曰く、新札、百万円1束で9・2mm、1千万円で9・2cm、成らば1億円は92cmであるとか。最後になりましたが、今回の募金目標満額達成の快挙は、募金推進部会員の皆さんのご尽力もさる事ながら、何と申ししても、会員皆様方のご理解の賜物であると改めまして衷心より厚くお礼申し上げます。有り難うございました。

平成11年度 総会報告

平成11年度同窓会総会が5月9日(日)移転新装なった琵琶湖ホテルにおいて118名の参加を得て開催されました。

総会は宇野敏一副会長の開会宣言、校歌斉唱、物故者への黙禱に引き続き、宇野勝同窓会会長、浅田幸作校長よりご挨拶をいただきました。

その後、感謝状の贈呈、顧問・参与の先生方の紹介があり、議事に入りました。

議長に飯田勝一常任理事長を選出。議案は

- (1) 平成10年度会務報告・部会報告
- (2) 平成10年度会計報告・会計監査報告
- (3) 平成11年度事業計画・予算案
- (4) 百周年記念事業報告
- (5) 役員改選 が上程されました。

(1)(2)(3)の議案については満場一致で原案どおり議決承認され、(4)の平成11年度事業計画については提案通り承認されましたが、予算案に関しては収入の部の特別会計よりの振替分は、一般会計に組み入れず特別会計のまま残しておくことに修正可決されました。

膳所高10回卒業の元外交官、七尾清彦氏より「世界の日本―私は関西に期待する」と題してご講演をいただきました。

その後会場を移し懇親会を開催。さまざまな年代の方々が一緒になって語り合い楽しい一時を過ごしました。今年は例年に比べ参加者が少なく少々寂しさを感じました。来年度はより多くの方々のご出席、特に若い世代の参加を期待いたします。

同窓会会費納入状況

皆様から納入いただきました、平成11年度の同窓会会費は、平成11年11月1日現在、

総額 **9,203,000円**

となっています。前払いしていただいている方については、当年度分を振替充当して、上記金額に集計させていただきます。

会員の皆様のご理解に感謝しますと共に、ますますのご協力をお願いいたします。

今回、振込用紙を同封させていただきました方は、平成11年度会費が未納となっています。お調べのうえ、ご納入のほどよろしく願います。会費納入の詳細については7ページをご覧ください。(財務部会)

会費納入ありがとうございました。

創立百周年記念事業 トレーニングハウス竣工!

百周年記念事業建設委員会

当委員会では、第2グラウンドの整備に併せて(仮称)膳所高等学校トレーニングハウスの計画を進めてきました。平成11年3月に設計者を決めるための設計コンペを行いました。広報紙を見て、遠くは東京から応募していただいた会社もあり、8社よりそれぞれ創意思工夫に満ちた設計提案を受けました。当委員会において、各案に対する検討を行い、公正を期すために2段階の無記名投票で設計者を川端建築計画一級建築士事務所(代表 川端眞)に決定しました。

川端眞氏は昭和57年卒で、現在野洲町において設計事務所を自営されています。計画案は、打放しコンクリートのダイナミックな構造フレームと木造の外壁の対比がユニークな、百周年を記念するにふさわしい建物です。

実施設計後の平成11年5月に、設計者と同様に応募された施工業者の内、一時書類選考で残った4社に対して入札を行い、施工者を松井工業(株)と決定しました。また、トレーニングハウスの中心となるトレーニング機器についても技術提案コンペを行い、応募された4社より(株)渡邊運動具店に決定しました。厳しい予算の中、設計者の川端氏と松井工業、渡邊運動具店の努力の下、地元や同窓生の方々の協力も得て平成11年12月上旬に無事竣工を迎えることとなりました。

この建物が百周年の記念となるとともに、膳所高等学校の生徒の体力向上に寄与して「文武両道の膳所高」の名を更に高めてくれることを期待しています。



卒業年別 募金集計

募金推進部

卒業年	件数	金額
旧職員	207名	4,260,000円
大正9年(膳中)	2名	110,000円
大正10年(膳中)	3名	70,000円
大正11年(膳中)	2名	100,000円
大正12年(膳中)	1名	50,000円
大正13年(膳中)	1名	10,000円
大正14年(膳中)	8名	330,000円
大正15年(膳中)	4名	40,000円
昭和2年(膳中)	1名	10,000円
昭和3年(膳中)	5名	140,000円
昭和4年(膳中)	9名	275,000円
昭和5年(膳中)	6名	145,000円
昭和6年(膳中)	18名	1,165,000円
昭和7年(膳中)	19名	357,000円
昭和8年(膳中)	24名	540,000円
昭和9年(膳中)	17名	240,000円
昭和10年(膳中)	24名	515,000円
昭和11年(膳中)	18名	815,000円
昭和12年(膳中)	28名	445,000円
昭和13年(膳中)	18名	1,155,000円
昭和14年(膳中)	44名	590,000円
昭和15年(膳中)	36名	1,485,000円
昭和16年(膳中)	50名	605,000円
昭和17年(膳中)	40名	970,000円
昭和18年(膳中)	60名	2,335,000円
昭和19年(膳中)	55名	1,740,000円
昭和20年(膳中)	136名	2,350,000円
昭和21年(膳中)	10名	970,000円
昭和22年(膳中)	89名	3,572,000円
昭和23年(膳中)	44名	505,000円
昭和24年(膳中)	12名	3,796,000円
昭和24年(旧膳高)	48名	3,458,000円
昭和24年(旧大津)	22名	3,928,000円
昭和25年(大津高)	208名	3,106,000円
昭和26年(旧大女)	51名	3,140,000円
昭和26年(大津高)	284名	2,835,000円
昭和27年(大津高)	269名	2,480,000円
昭和28年(大津東)	293名	2,480,000円
昭和29年(大津東)	217名	3,081,000円
昭和30年(大津東)	146名	3,081,000円
昭和31年(大津東)	196名	2,973,000円
昭和32年(膳所高)	169名	3,081,000円
昭和33年(膳所高)	187名	3,081,000円
昭和34年(膳所高)	175名	2,973,000円

クラブハウス設計管理を終えられた一級建築士、川端眞さんが、1999年10月30日(土)午後7時からの「さんこう」での同窓会広報部編集会議の席にお見えになりましたのでインタビューさせていただきました。

Q 膳所高57年(膳所高30回)ご卒業とお聞きしています。在学時代のことなどお聞かせください。

多くのことを吸収できた膳所高時代
ちょうど自分の価値観を持ち始めたころでしたね。時間だけはたっぷりありましたから本を読んだり写真部で活動したり多くのことを吸収できました。無二の親友も得ることができました。建築を志したのもこのころで、大学受験のために放課後美術の岡野靖夫先生からスケッチのご指導を受けたのも思い出深いですね。

Q 設計の打合せのためにご卒業後初めて膳所高を訪られたそうですが、母校の様子はいかがでしたか。

凜とした空気に100年の重み
18年振りの膳所高でしたが、一見、何も変わっていないように感じました。建物は老朽化しているのですが、凜とした空気が満ちていて100年の重みを感じさせるには十分でした。また、生徒は皆、礼儀正しく、部活動も盛んで、21世紀に向かっての飛翔を予感させられる思いがしましたね。

Q どのような思いを込めて設計にあたられましたか。

膳所高生にとって大切なもの
そうですね。記念事業であるということ以前に、現在のまた将来の膳所高生にとって何が大切かを考えました。とりわけ進取と独創の心を大切にしてもらいたいとの思いを込めて計画しました。幸い同窓生や先生方のご支持を得ることができまして、従来の学校建築の通念を打ち破る設計ができたと思います。建築が人に与える影響は、ごくわずかであると思いますが、この建築が膳所高生に受け入れられ、二百周年を迎えるときにも使い続けられていることを願っています。

Q 竣工を目前にされて、今のお気持ちは……母校の百周年記念事業に参加できた喜びと誇り

同窓会役員、先生、先輩、それぞれの方々から貴重なご指導やご鞭撻をいただき計画の推進にご尽力いただきました。また監督や職人一人ひとりが最高の技術をもって工事に臨んでいただけました。このように無事竣工を迎えられるのも、ひとえにこうした多くの方々のご協力の賜物であり、感謝の気持ちでいっぱいです。「膳所高等学校創立百周年」の記念事業に参加できたことは、卒業生の一人として大きな喜びであり、また、誇りでもあります。今後も、自分の原点「自分の足もとを掘れ」を大切に、こつこつと一つ一つ創り込んでいこうと思っています。

川端さんは、滋賀県野洲郡野洲町に建築計画一級建築士事務所を置き幅広く活躍。膳所高の先輩・後輩の皆さんとは交流をお持ちだそうです。今回は、記念的なお仕事を通じて同窓会との強い結びつきができました。今後はぜひとも同窓会活動にご協力くださるようをお願いしてインタビューを終えました。川端さんのますますのご活躍をお祈りしています。(花坂)



膳所高トレーニングハウス設計コンペ一席作品設計者、川端 眞さんに聞く 進取と独創の心を大切に……の思いを込めて。

膳所高トレーニングハウス

設計主旨

■シンボル性 — SYMBOLISM —
滋賀県立膳所高等学校の創立百周年という、大きな節目にふさわしい記念性を持つ建築とするため、ダイナミックな構成によって象徴的な外観としている。独自の構造形式によって重力からの開放を表現するとともに、21世紀に向かう力強さも合わせ持つ形態を目指している。後輩たちに進取と独創の心を大切にしてほしいという願いを込めて、意図的に流行を排除し、恒久的かつシンプルなデザインを心掛けた。

■空間構成 — SPACE CONSTITUTION —
象徴的な柱と梁で空間を切り取ることで、必要最小限の要素で基本空間を構成している。トレーニング室は本格的なトレーニングを集中してできるよう、独立した空間に木のぬくもりを採り入れており、基本的な機能に空間的な付加価値を与えている。さらに、通常ネガティブな空間であるピロティを積極的に創り込む試みとして、2階床スラブをピロティを構成する純粋な空間要素として捉えており、2階すべてがピロティの屋根の役割を果たしている。

また、生徒の交流を喚起するため、建築単体にとどまらず外部との繋がりを視野に入れたプランニングとなっている。第2グラウンドアプローチ空間1階段バルコニーミーティング室の繋がりは連続的であり、2階部分が隔離されることがない。特にバルコニーは、小さな空間であるが、この建築の要となっており、すべての利用者を拒絶しないだけの包容力を持っている。このことは、この建築が多様な利用形態に対応でき、様々なシチュエーションが生まれる可能性を持つことも意味する。

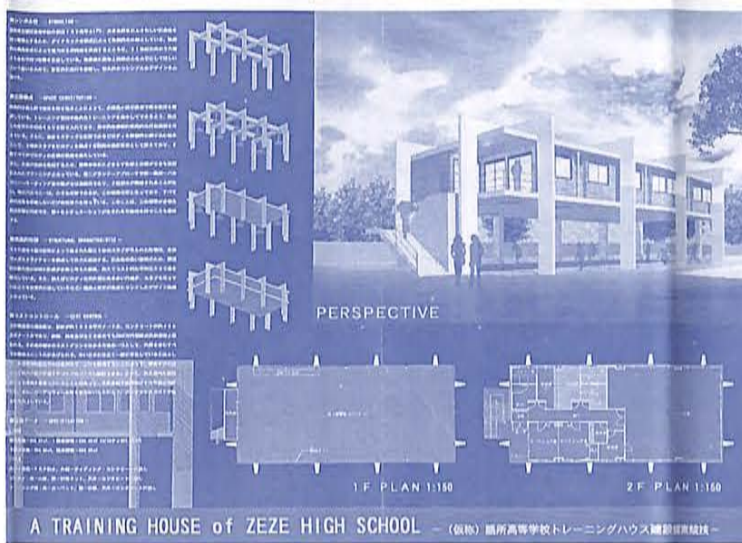
■構造的特徴 — STRUCTURAL CHARACTERISTIC —
SRC造の6組の柱梁によって組まれた籠に2枚のスラブが吊られた形態は、全体でメガストラクチャーを構成して外力に抵抗する。記念性の高い建築のため、構造的な耐久性には特に配慮が必要と考えた結果、敢えてコスト的に不利なSRC造を採用している。また、構造と意匠が高度にリンクしたデザイン表現となっている。

■コストコントロール — COST CONTROL —
主要構造部の建築費は、型枠が約1930平方メートル、コンクリートが約430立方メートルであり、鉄筋、鉄骨及び土工を含めても2500万円程度が実勢価格と思われる。その他の部分のコストダウンをはかる方法の一つとして、外壁を含むすべての壁のユニット化があげられる。幸い日本には広く一般に普及している工法として、木造在来軸組住宅の技術があり、これを採用することによって、建具を含むほとんどの内装が安価でかつエコロジカルに建設できる。さらに、先に述べた意図によって虚飾を排除していることと相

まって、予定金額での建設は十分可能と判断した。また、カーテンウォール等を使わないことにより、メンテナンスコストや安全性も向上している。

■計画データ — SPECIFICATION —
■面積 建築面積 298.12㎡
1階床面積 246.28㎡
(ピロティ) 255.53㎡
2階床面積 253.00㎡
延床面積 499.28㎡

■仕上
外部：屋根—ウレタン塗膜防水、
外壁—杉板貼・コンクリート打放し
ピロティ：床—山砂、壁—防球ネット
トレーニング室：床—長尺シート、壁—杉板



A TRAINING HOUSE of ZEZE HIGH SCHOOL (飯島 膳所高等学校トレーニングハウス建築設計)

投稿欄

ひとときの 授業なりけり 教子よ
何か少しでも 役に立ちしか
川崎 洋子 (旧職員)

新たな 記念に出さし グラウンドに
気持の晴るる 若人の声
上野 滋子 (東2)

※川崎洋子様は以前にも寄稿いただきVOLUME14に掲載させていただきました。誠にありがとうございます。その際に誤って、河崎洋子様と記載いたしました。誠に謹んでお詫言ひ申し上げます。

テレフォンセールスに「注意!!」

最近、同窓会名簿を悪用して「膳所高卒業生の方に」とか「膳所高同窓会の方に」といって、いかにも同窓会の紹介のような電話での商品セールスや投資勧誘が行われています。膳所高同窓会では特定の業者を紹介したり、同窓会員以外に名簿を販売するなどの行為は一切いたしておりません。また、名簿発行については、姫路市の名簿専門会社(株)サトに編集出版委託し、厳正な管理のもと膳所高同窓会が発行元となっておりますので、他の会社や団体が発行するものは全て無断で実施しているものです。

どうかくれぐれもご注意ください。また、ようお願い申し上げます。

広報部会より

広報部会にご参加を!

1992年同窓会の活性化のひとつとして同窓会報復刊準備号の発行を見てから7年目を迎えました。創立百周年記念式典も無事終わり、同窓生皆様方からの募金目標額1億円を達成、その記念事業も完成を間近に控えています。この間広報部員も復刊準備号をVOL.0とし、今回のVOL.16まで学校関係者及びプロの同窓生や何の知識も持たなかった者を含めた総勢20名程度で、できる限り努力してきました。

膳所高同窓会創立百周年を数年後に控えた際には、この行事・事業を成功させるお手伝いをしたいと願いました。物事を進めるには、人・物・金及び情報と言われます。広報部としては、会費納入状況と募金目標額周知のために力を入れました。発行1回1回そのたびに行き詰まることもありましたが、教えられることも多く、本当にいい体験をさせていただいたと思っています。

記念事業の仕上がりも近く、又新世紀を間近にして新しい発想を持った若い人たちが、これからの100年における夢をJUNGRIDDの紙上で語り合ってください。そして紙上で語り合う人たちの橋渡し役になる多くの広報部入り希望者からの連絡をお待ちしています。希望者は膳所高同窓会事務局までご連絡下さい。

(TEL) 077-1524-4295 (高橋 好乃)

昭和35年(膳所高)	昭和36年(膳所高)	昭和37年(膳所高)	昭和38年(膳所高)	昭和39年(膳所高)	昭和40年(膳所高)	昭和41年(膳所高)	昭和42年(膳所高)	昭和43年(膳所高)	昭和44年(膳所高)	昭和45年(膳所高)	昭和46年(膳所高)	昭和47年(膳所高)	昭和48年(膳所高)	昭和49年(膳所高)	昭和50年(膳所高)	昭和51年(膳所高)	昭和52年(膳所高)	昭和53年(膳所高)	昭和54年(膳所高)	昭和55年(膳所高)	昭和56年(膳所高)	昭和57年(膳所高)	昭和58年(膳所高)	昭和59年(膳所高)	昭和60年(膳所高)	昭和61年(膳所高)	昭和62年(膳所高)	昭和63年(膳所高)	平成元年(膳所高)	平成2年(膳所高)	平成3年(膳所高)	平成4年(膳所高)	平成5年(膳所高)	平成6年(膳所高)	平成7年(膳所高)	平成8年(膳所高)	平成9年(膳所高)	平成10年(膳所高)	現職員	企業	グループ	通信制石鹿会	納入者総数	総額
196名	179名	144名	180名	140名	154名	95名	115名	132名	88名	94名	78名	72名	82名	57名	53名	36名	28名	40名	40名	38名	33名	36名	39名	29名	22名	29名	24名	27名	30名	22名	37名	21名	34名	25名	28名	27名	39名	27名	84名	42社	11	1	5,838名	100,248,538円
3,416,000円	2,789,000円	1,989,000円	2,017,000円	2,353,000円	2,080,000円	1,344,770円	1,860,000円	1,985,000円	1,250,000円	1,126,000円	975,000円	930,000円	1,070,000円	875,000円	608,000円	390,000円	385,000円	512,000円	650,000円	445,000円	383,000円	433,000円	445,000円	285,000円	225,000円	345,000円	185,000円	258,000円	305,000円	200,000円	468,000円	230,000円	400,000円	270,000円	320,000円	300,000円	386,000円	275,000円	1,885,000円	4,570,000円	1,605,510円	100,000円	5,838名	100,248,538円

※本校卒業生である旧職員・現職員については、集計上重複して掲載しています。(126件 3,155千円)
ご協力ありがとうございました。 募金推進部会

周年記念同窓会



卒業25周年記念同窓会(膳所高22回)

(昭和49年卒業)

昭和49年卒業生による卒業25周年記念同窓会が、8月14日、浜大津の「琵琶湖ホテル」で催されました。お盆のさなかにも関わらず、恩師として、岡田節夫先生、谷元峰男先生、増井金典先生、南池宜樹先生、小柳順吾先生、岡野正義先生、大野富雄先生、八木敏雄先生、越前寛先生、三好亮一先生、計10名の先生方と、122名の卒業生が参加し、盛大な会となりました。久しぶりに懐かしい恩師の先生方や、同級生の方々とお会いし、高校時代を思い出し、楽しい昔話がありました。

今回残念ながらご参加できなかった方もおられると思いますが、次回は30周年の同窓会を実行委員長宇野哲夫君、事務局長國松完二君でお願いする運びとなりました。



(宮川 誠)

卒業40周年記念同窓会(膳所高7回)

(昭和34年卒業)

去る9月12日(旧)新装なった琵琶湖ホテルの瑠璃の間において、6人の恩師の先生をお招きして、同窓生約100余名が集い、記念すべき卒業40年目の会を祝いました。私たちは、ちょうど終戦後の混乱期に物心がつき、高度経済成長と共に成長し、働き、そのバブルによる終焉と期をいつにして、社会の一

線から退くという、何とも名譽な世代であると自認するところですが、みなそれぞれひたすら前のめりの姿勢から、体勢を建て直し、あるいは、過去を懐かしみ、これからの人生のあり方について、お互いの経験

を踏まえ、しみじみ語り合い、時間のたつのも忘れて有意義な会を過ごすことができました。

来年はいよいよ選任をむかえます。来年も全員が再会できることを祈念して散会いたしました。

(幹事代表 3年8組 古川 孝夫)



真珠会 卒業50周年記念同窓会

(昭和24年卒業)

第10回真珠会は、6月1日・2日に「ホテルプラザ神戸」で開催いたしました。卒業50周年、松山先生喜寿、真珠会員古希の記念祝賀クラス会です。松山先生をお迎えして、12名(出席率26%)が集まりました。卒業以来はじめて参加してくれた友達や、新幹線とタクシーで駆けつけてくれた友達のお陰で楽しさも倍増されました。

クラス会に先立ち「神戸市立小磯記念美術館」を訪ねました。そのあと、ホテルの屋上庭園のチャペル前で、一同記念撮影をしました。

はじめに、先生に喜寿のお祝



品の贈呈をしました。卒業50周年と古希記念のそれぞれの品を披露して、そのあと、ホテルの社長様からお祝に頂いた、シャンペンと紅白の葡萄酒で乾杯しました。

フランス料理を頂きながら、華やいた雰囲気にもまれて、話題は次第に高校時代に飛びました。瞬間に時が過ぎ、二次会はホテルのラウンジに席を移しました。寶石をちりばめたような美しい神戸の夜景に見とれながら、懐かしい話が続きました。松山先生もこの時間までお付き合い下さいました。長いようでも短かったこの卒業50年。そして今、松山先生は喜寿、私達は古希を、健やかに迎え神戸に集えた幸せを喜び合い、卒業50年という、感慨深い一頁を綴ることが出来ました。(佐田 葉子)

ななしの会(大津高1回)

(昭和25年卒業)

名前のない会、という名称の「ななしの会」は、同期生の親睦会です。昭和47年に始まり、57年からは毎年一泊旅行をしています。

本年(平成11年9月28日・29日)は、男子17名、女子31名の計48名が、「道後温泉と瀬戸内しまなみ海道の旅」を楽しんできました。

昭和63年「瀬戸大橋」。平成10年「明石海峡大橋」。そして本年「しまなみ海道」。これで本州と四国を結ぶ三大橋全てを、その開通年に合わせて、「ななしの会」が初渡りました。

二日間とも残暑での好天気。名湯道後の「椿館」は、明治調のレトロと華やかさの調和した素敵なホテルでした。

全員写真は大三島の、大山祇(おおやまずみ)神社前での、元気な67才と68才の記念です。撮影日は1999年9月29日。奇しくも、往復のデラックスバス「ル・グラン号」のプレートナンバーが19999でありました。

ミレニアムへのバトンを、細川源一さんと神元孝江さんにお渡ししました。(本年幹事 住森 通禮・洪川 博子)



卒業年別平成11年度同窓会費納入状況

財務部会

卒業年	納入者数	納入金額合計
大正9年(膳中)	1名	3,000円
大正10年(膳中)	3名	9,000円
大正11年(膳中)	2名	6,000円
大正12年(膳中)	2名	6,000円
大正14年(膳中)	4名	12,000円
昭和3年(膳中)	3名	9,000円
昭和4年(膳中)	5名	15,000円
昭和5年(膳中)	1名	3,000円
昭和6年(膳中)	3名	9,000円
昭和7年(膳中)	10名	30,000円
昭和8年(膳中)	10名	30,000円
昭和9年(膳中)	10名	30,000円
昭和10年(膳中)	14名	42,000円
昭和11年(膳中)	10名	30,000円
昭和12年(膳中)	10名	30,000円
昭和13年(膳中)	14名	42,000円
昭和14年(膳中)	20名	60,000円
昭和15年(膳中)	18名	54,000円
昭和16年(膳中)	26名	78,000円
昭和17年(膳中)	22名	66,000円
昭和18年(膳中)	39名	117,000円
昭和19年(膳中)	32名	96,000円
昭和20年(膳中)	84名	252,000円
昭和21年(膳中)	6名	18,000円
昭和22年(膳中)	55名	165,000円
昭和23年(膳中)	27名	81,000円
昭和24年(膳中)	8名	24,000円
昭和24年(膳中)	23名	69,000円
昭和24年(膳中)	17名	51,000円
昭和25年(膳中)	82名	245,000円
昭和24年(膳中)	19名	57,000円
昭和24年(膳中)	7名	21,000円
昭和26年(膳中)	12名	36,000円
昭和27年(膳中)	11名	33,000円
昭和28年(膳中)	97名	294,000円
昭和29年(膳中)	99名	297,000円
昭和30年(膳中)	99名	297,000円
昭和31年(膳中)	96名	288,000円
昭和32年(膳中)	71名	213,000円
昭和33年(膳中)	87名	261,000円
昭和34年(膳中)	92名	276,000円
昭和35年(膳中)	98名	291,000円

卒業44周年記念同期同窓会

(昭和30年卒業)

同窓会は同期会、3年毎の同期同窓会が44周年記念会として、去る7月10日に新しくなった琵琶湖ホテルで開催されました。出席者は90名弱でした。元来、同窓会は先細りの団体で、いつかは消滅するものであるが、それまではできるだけ多くの出席者を募りたいものであります。

今回から、従来と違った出来事といえば、恩師をお呼びしなかつた事です。今までは恩師を囲んで思い出話に花を咲かせていたものですが、ご高齢のためかえってご迷惑になるのではないかと心配慮からでありました。

自分の配偶者よりも永い付き合い合いの同期の面々を目の前にして、懐かしい思い出話に時の過ぎるのを忘れて談笑している姿は、44年前の当時と余り変わりない様に思われました。次回からは2年毎にする予定です。

滋賀県立坂田高等学校

膳中 四三会 (四卒) 同級会

(昭和20年卒業)

昭和20年3月、繰上卒業した我々同級生200名も以来54年、すでに古稀を過ぎ2割の物故者を数える中、記録に残るだけでも第12回目の同級会が平成11年10月16日、京都在住者が世話役となり京都市のホテルフジタで開催された。

「おう！元気が？」「生きとるぞ！」ロビーから大声が聞こえてくる。出席64名(付添の夫人1名)。欠席の返事には体調不調などを訴える便りが多く、さすがに年齢を感じさせ往年の美少年の姿は無く、星霜の移り変わりが感じられた。

我々のクラスは非常に珍しい生徒時代を経験している。旧制中学は5年制だが、戦時中のこととて4年で卒業、それまでも予科練など軍の学校への転

出も多く、残った者は4年生の大半を安土村の琵琶湖干拓作業のための合宿生活など、苦勞を重ねてきた年代である。

そうした苦勞を共にしてきた為と、男性のみの気楽さから話題も多く、出席者は全員元氣はつらつ、年に似合わぬ若さのパワーがみなぎっていた。

終了前には恒例の懐かしい校歌「草むす城は」を斉唱、少なくとも今まで生きてきた年より、これから先の人生がはるかに短いことを感じながら、何時までも尽きぬ思い出を抱いて一刻を過ごし、来年の「瀬田、石山」在住者の世話役による再会を約してお開きとした。



下津 信吾

二六会 48周年同窓会

(昭和26年卒業)

11月3日、浜大津地区当番幹事の主催で浜大津「琵琶湖ホテル」を会場に、北は東北、南は九州と全国各地から180名余の同期生が集まって、二六会48周年同窓会が開かれた。

先ず始めに庭に出て、きらめくびわ湖のさざ波、ゆるやかな稜線の比良、比叡の山並をバックに全員で記念撮影。

場所を宴会場に移し、元氣になられた沢井さんの司会で89名の物故者への黙禱、地区代表幹事の岩波日出男さんの挨拶と続き、出席返信第1号の原田博之



膳所高校 二六会同窓会

さんの音頭で乾杯し懇親会が始まった。あとは同級生の気安さもあって、あつちのテーブル、こつちのテーブルと渡り鳥よろしく移動して旧交を温め、近況を語り合うなどしていった。予定の時間があつという間に過ぎていった。宴会も終わりに近づき、お楽しみ抽選会、ジャンケンゲームで雰囲気がいよいよ盛りあがるなかで、終宴の行事へ。

(小林 正子)

周年同窓会 予告

20周年記念同窓会

昭和55年卒業 (膳所高第28回)

- ・日時 平成12年1月2日(日) 午前11時受付
- ・会場 琵琶湖ホテル(浜大津)
- ・世話人 若吉(松井)祥子
- ・連絡先 077-525-11015

*出欠のお返事まだの方、大至急ご連絡ください。

古稀記念同級会

昭和23年3月卒業 (膳中第46回)
昭和24年3月卒業 (旧膳所高)

- ・日時 平成12年1月29日(土) 13時
- ・会場 琵琶湖ホテル(大津市浜町)
- ・世話人代表 中井 善作
- ・連絡係 田中 健一
- TEL 077-552-2927

40周年記念同窓会

昭和35年卒業 (膳所高第8回)

- ・日時 平成12年3月18日(土) 午後3時
- ・会場 ロイヤルオークホテル
- ・世話人 秋野 正誠
- 090-13033-0116
- 板倉 国弘
- 090-12354-3324

昭和36年(膳所高)	83名	249,000円
昭和37年(膳所高)	79名	237,000円
昭和38年(膳所高)	86名	258,000円
昭和39年(膳所高)	62名	185,000円
昭和40年(膳所高)	76名	226,000円
昭和41年(膳所高)	57名	171,000円
昭和42年(膳所高)	66名	196,000円
昭和43年(膳所高)	64名	192,000円
昭和44年(膳所高)	58名	174,000円
昭和45年(膳所高)	49名	147,000円
昭和46年(膳所高)	45名	135,000円
昭和47年(膳所高)	39名	117,000円
昭和48年(膳所高)	42名	126,000円
昭和49年(膳所高)	50名	150,000円
昭和50年(膳所高)	34名	104,000円
昭和51年(膳所高)	24名	72,000円
昭和52年(膳所高)	32名	96,000円
昭和53年(膳所高)	34名	102,000円
昭和54年(膳所高)	33名	99,000円
昭和55年(膳所高)	22名	66,000円
昭和56年(膳所高)	30名	90,000円
昭和57年(膳所高)	50名	150,000円
昭和58年(膳所高)	29名	87,000円
昭和59年(膳所高)	26名	78,000円
昭和60年(膳所高)	28名	84,000円
昭和61年(膳所高)	35名	105,000円
昭和62年(膳所高)	29名	87,000円
昭和63年(膳所高)	30名	90,000円
平成元年(膳所高)	33名	99,000円
平成2年(膳所高)	31名	93,000円
平成3年(膳所高)	41名	123,000円
平成4年(膳所高)	34名	102,000円
平成5年(膳所高)	33名	99,000円
平成6年(膳所高)	21名	63,000円
平成7年(膳所高)	21名	63,000円
旧職員	3名	9,000円
納入者総数	3,070名	9,203,000円

(平成11年11月1日現在)

ご協力ありがとうございました。今後ともご理解とご協力をよろしくお願い致します。

財務部会



百周年協奏曲を奏で終えて



「生徒第九合唱」の誕生事情と経過概要 (II)

百周年記念事業校内企画委員会委員長 羽野 正孝

「平成10年11月7日」は、膳所高校の「百周年協奏曲」が完成し鳴り響いた日であり、参会者全員が深い感動に包まれた日だった。すでに、「14号」で両式典のハイライトが報じられ、「15号」で平成9年12月までの経過を記させていただいたが、本号ではそれ以降の経過概要を紹介させていただく。

5 「第九全体合唱」の発想と、合唱隊の組織化

平成10年2月～10年4月

今回の「第九合唱」では、全校生徒による「全体合唱」の企画が、会場全体を一にするのに大きな役割を果たしていたと思う。時間的には本場に短い発表であるが、全校練習などを通して徐々に百周年の雰囲気は高まっていったと思う。この「全体合唱」の発想は、式典のちょうど9ヶ月前に湧き起こったが、時期的にもあとわずか、これ以後は「生徒第九合唱」は突っ走ることになる。

10年2月7日、長野オリンピックの開会式での第九合唱、とりわけ、「歓喜のテーマ」の部分の、観客を含めた大合唱に感動した人は多からう。私もその一人で、涙ながらに観た。開会式の様子を、談話室のテレビで観ていた時、「これだ。これをやってみよう。」と思ひ、傍らの村西先生に言ったのである。そして、早速この希望の実現を図るべく関係者間の相談をした。

もちろんこの発想が生まれるには下地があった。それは、それまでに第九の全般的な位置づけを考えたことである。「記念式典を単なる式典に終わらせたくない、なんとか生徒の心に感動的なもののできないか。多くの生徒が、いや、できれば全校生徒がその中心として活動できる式典内容にできないのか。」と探り続けていた私たちの気持ちが通じたものと思う。こうして、大きなヒントを与えられて、感動的な式典構成へと一歩を踏み出したのである。

何はともあれ、一つの目標は出来、計画は具体化していった。10年2月24日、当時の1・2年生(10年度の2・3年生)に対して初めて「記念式典」の概略を知らせ、「第九の合唱部分」を生徒主体の合唱隊を組織して歌うこと、特に、「歓喜のテーマ」の部分全校全員合唱したいことを伝えた。と同時に、音楽選択生以外の参加希望者を募った。また、その年の卒業予定者や、新入生の音楽選択生以外の参加希望者を募った。一方、音楽授業での生徒の実状(直村先生がやってみられて、生徒だけでは男声パートの人数不足が予想された)のために、現職員・同窓生・保護者の男声のみ参加依頼することになった。

こうして、10年4月末に、生徒を中心とした約370名の合唱隊になった。(5月15日付けの「記念行事式典部会」の記録では、生徒366人、OB・PTA12名、計378名となっている。)

6 1学期の合唱練習と中間発表

平成10年4月～10年7月

10年3月に練習計画を立案、4月に職員会議の最終的な了承を得た後、10年4月28日に第一回第九合唱練習会を持って、音楽選択生以外の生徒(希望生徒)も含めた練習が開始された。7月末まで、21回の練習会(放課後)を実施した。6月中旬に譜読みを終えることを目標とした。そのポイントには、ドイツ語の発音練習と音取りであった。男女別のパート練習を積み重ね、7月中旬から体育館での合同練習を実施した。

10年7月10日、文化祭2日目のオープニングとして、「第九中間発表」を実施し、初めての合同練習であるにも拘わらずよかった。大合唱の成功の確信を、合唱隊全員に、さらに全校の全員に与えてくれた。

7 2学期の練習と指揮者の合唱指導

平成10年9月～10年11月

9月1日は、式典まで「あと67日」に差し迫ってきた日であった。これ以後、当日前までの練習は、16回実施された。この時期の練習は、次の各点で1学期とは異なっている。

- ① 指揮者山下一史氏による合唱指導があること。(4回)
- ② 全校生徒練習があること。(5回)
- ③ LHR利用の練習があること。(5回)
- ④ オケとの合同練習(2回)

この時期の練習でまず取り上げるべきことは、何と云っても、指揮者山下一史氏による直接の合唱指導であろう。氏の合唱指導により、生徒のやる気が一気に向上し、膳所高校「第九合唱」の成功へと導かれていった。もちろん、それまでの直村先生の音楽授業での1年間に亘る指導の下地、そして、1学期から9月までの合唱指導の下地があった、開花したのであるが、指揮者山下氏が生徒を上手につかみ、生徒のところまで降りていって丁寧に指導して下さったことが大きいと思う。生徒は山下氏の指導の言葉によって、「第九の精神」・「合唱のこころ」など多くのことを教えられたと思う。「第九合唱練習」が、単なる「合唱の練習」だけに終わっていないことを期待したい。

指揮者山下一史氏による合唱指導は、4回あったわけだが、ここでは、特に初回(10月1日)の指導が重要な意味を持っていたことを書き留めておきたい。この練習は、二つの重要な意味を持っていた。一つは、この日の指導が膳所高校第九合唱の「最大の分岐点」、あるいは「発火点」だった。「内は直村先生の言葉。」ことであり、もう一つは、この日に第九全体合唱の「快諾が得られた」ことである。

次に、「LHR利用練習」と「全校生徒練習」について振り返ってみたい。

これらの練習が持つ意味はますます言うまでもないが、合唱隊全員が揃って練習できる「場所」と「時間」の保障である。この保障がない限り「生徒第九合唱」は成り立たないのであるから、先生方にも生徒諸君にも理解と協力をお願いしたところである。最低の、切

り詰めた計画であったが、それでも、「第九合唱成功」の大きな要因(力)であった。それは、「この練習以外の練習」の集まりが悪かったという結果で実証されている。結果として、「もっと揃って練習が出来れば、もっと質の高いものが出来ていたのに」などという無念な後悔をあまり残していないのだから、適当な練習回数であったと言えよう。

2学期の練習がスムーズにいったかという点、正直言ってそうではなかった。それは、9月以降、生徒にも、先生にも、数多くの文書を出して呼びかけていることでも分かる。また、9月24日には「参加の最終確認」をして体制の強化を図っている。10月1日の「第九全体合唱正式決定」も、それによって心構えを作ることにもっと強くつながってほしかった。体制が決まり、スケジュールが決まっても、やはり、うまく運ばない点が出てきた。全校練習では指揮者から静かにするようにという注意を受けた。全体が一つにまとまるのがいかに難しいかを痛感した。しかし、そんなことも「第九の大成功」で吹っ飛んでしまっているのが幸いである。

8 膳所高校第九合唱の成功

前日と当日

オーケストラとの合同練習は、前日(11月6日)と当日朝の2回のみで、しかも、前日練習は思っていたより短時間で終わった。前日練習では、生徒は、オーケストラ及びソリストのプロの力を見せつけられたであろう。しかし、それにひるむことなく、本番で実力以上の合唱を聴かせてくれた。KBSビデオの最後で、直村先生が仰言っている「若いって素晴らしいですね。」という言葉に尽きる。何と云っても生徒は素晴らしい。改めて膳所高校の底力を見せつけられた。それだけでも「第九合唱」は意味を持っていると思う。この成果が今後の百年につながってほしいと思う。

当日、合唱隊は1列30人、12段の雑壇に並んだ。服装は上を白、下を黒にし、各自手製の蝶ネクタイをつけた。バックの幕が黒なので一段ときれいに映えた。14号の写真で状況は分かっただろう。

合唱隊は、この日は大変だったと思う。8時45分にはびわ湖ホールに集合し、9時10分から9時45分まで合唱隊のみの練習をした。軽食の後、10時30分から11時15分まではオーケストラとの総練習(GP)、休憩をはさんで、いよいよ本番。11時40分までには雑壇に着席完了であった。その後、「式典」と「公演」との間は実質10分ほどの休憩しか取れなかったのだから、14時20分頃まで、約2時間40分雑壇で頑張ってくれたことになる。

合唱隊以外の生徒もよく歌ってくれた。全員合唱の時の「立つ」・「座る」動作のすばやさと統一性は見事であり、全体合唱の企画が感動的だったとの言葉を多くの方から聞いた。

こうして、感動的な式典は幕を閉じたのである。



全国大会等の結果

全国大会等の結果、下表のように多くの好成績を残すことになりました。

体育部

インターハイの結果

ボート	男子舵手付きフォア 女子シングルスカル (美濃部由佳2年)	準々決勝進出 準決勝進出
空手	女子個人形(木村悠子3年)	予選通過ならず
ヨット	男子ソロ 男子デュエット 女子ソロ 女子デュエット	42、43、54位 13位 26位 20位

県民体育大会の結果

男子総合	5位
女子総合	6位

国民体育大会の結果

ボート	男子舵手付きフォア (滋賀選抜:竹村光春、中西 誠、 船田隆行、柏村良和3年)	6位
女子シングルスカル	(美濃部由佳2年)	予選敗退

水泳	水球(滋賀選抜:池野健作3年)	予選リーグ敗退
----	-----------------	---------

ヨット	男子FJ (吉田豊克3年、積慶樹3年)	16位
	男子シーホッパー(荻田一貴3年)	29位
	女子FJ (飯田玲子3年、福本聡子3年)	6位入賞
	女子シーホッパー(鈴加奈子2年)	37位

文化部

全国高文祭の結果

将棋	毛利剛之(3年)	2回戦進出
かるた	小倉百首かるた部門 決勝トーナメント(ベスト8)進出	
放送	アナウンス部門 番組部門	参加 参加

その他

全国高等学校小倉百首かるた選手権大会	かるた	4位
NHK杯全国高等学校放送コンテスト	放送	アナウンス部門(上西冨幸3年) 準々決勝進出 ラジオドラマ部門 準々決勝進出(奨励賞)



湖風祭は、生徒一人一人が、マスゲーム部門、アーティスト部門、パフォーマンス部門のうちのどれかに必ず所属し、部門内で協力し合って大きな目的を成し遂げる、という形に進めました。それ以外にも、各クラスで何か一つ出し物をするクラス発表、有志による発表など、発想に富んだ発表で大変盛り上がりました。その勢いで、三日目の体育祭も大盛況の中でフィナーレを飾りました。来年もより完成度の高い学園祭になるようにがんばります。

(総務部 二年 加藤 司)



写真は、信楽焼きのタイル五百枚を使ったタイルアートで、生徒約五十人が湖風祭当日(七月八日)までかけて作ったものです。高校生の自主的な活動に資金援助する県教育委員会の事業「高校生夢サポート」の一環で本校で取り組まれました。大きさは縦二メートル、横四メートル。白い鳥たちが青く輝く琵琶湖の上を飛ぶ姿をタイルに焼きつけました。

(顧問 楊井)



● サッカー班
長年、いろんな班が入り乱れ、常に危険と隣り合わせで活動していたのが嘘のようで、第二グラウンドは野球のボール、ラグビーボールが飛んでくることなく、逆に、サッカーボールが他の班の活動場所に飛んでいって迷惑をかけることも、ほとんどなくなりました。更に他校での練習試合においても第一グラウンドは、正式なサッカーコートが取れなかったため、相手校にお世話になっていたのが大半でしたが、このことも解消され、本当に有り難く感謝して、毎日使用させていたれています。

● テニス班
テニス同好会が発足以来、苦節十年余、いつも悩みの種は練習場所の確保でした。今年度も班に昇格して、二期からは学校の新しいテニスコートで練習ができ、生徒共々大変喜んで使用させていただいております。近江大橋を渡って矢橋まで、または京阪電車に乗って皇子山まで行くことを思えば、徒歩5分の所にテニスコートがあるなど夢のようです。初日は草取りから初め、毎日練習後は整備をしています。特に2面あるオムニコートはイレギュラーもなく、両上がりでもすぐに使用でき、公式戦と同じコートサーフェスなのでとてもありがたいです。コートを大切に使いながら、日々目標を持って練習していきたいと班員・顧問一同思っております。

● 野球班
校舎前のグラウンドで長い歴史を刻んできた野球班は今年八月中旬、ついに新グラウンドに移らせていただくことになりました。同窓会・野球部OB・地域住民・教職員その他数え上げればたくさんの方々のご支援ご協力のたまものと深く感謝しております。新グラウンドは左中間のふくらみと外野のファウルグラウンドに若干問題を残すものの、両翼九十メートルを超えるほぼ球場と同じ規模のもので、これでボールが外に出て車を傷つけることや他の部員にボールが当たることはほぼ解消し、指導者も選手も伸び伸びとやらせていただいております。環境を整えていただいていた今度チームが良い結果を出せるように精進していきたいと思っております。とはいえ、まだまだ未熟なチームです。これからも何かと皆様にご助力願わねばならないことが出てくると思っております。どうか今後ともよろしくお願いたします。

(顧問 高木)

(顧問 東出)



編集後記

「募金目標満額達成」万歳！
さすが膳所高同窓会。
会員結束の証し。いつまでも、
トレーニングハウス竣工、第2グラウンドの完成。おめでとうございます。
文武両道。我等が伝統。
今年役員改選の年。
広報部会員は全員留任。平均年齢「50歳才」が16号もがりました。
が、ニューソリスのリフレッシュを図らねば。

● 来春の次号17号は、百周年記念事業の総括を報告する予定です。そして18号からは「二百周年」に向けて、新たな出発！30代、40代のフレッシュな広報部会員大歓迎。
お気軽に事務局までご連絡を。

上野 滋子	(東2)	谷口 啓司	(膳10)
田中 美津代	(東4)	佐田 葉子	(旧大)
山田 勲	(膳11)	宮崎 美恵	(大3)
高橋 好乃	(東4)	花坂 多恵子	(膳6)
服部 章	(膳12)	若代 敦子	(膳24)
岡澤 則子	(膳26)	吉田 稔	(膳26)
福井 浩	(膳29)		



第2グラウンド